

活動分野	ステップアップ講座		
タイトル	麗澤大の森のすばらしさについて		
実施日時	2021年7月15日(木) 19時15分~20時05分		
実施場所	オンライン(ZOOM)		
受講者	18名	F I C会員	19名(講師含む)

活動の内容

今回の講師は森田正樹さん。テーマは「麗澤大の森のすばらしさについて」。バーチャル観察会に参加した感じで気軽に話を聞いてほしいと講座が開始になった。

麗澤大のシンボルは「マンリョウ」



校章にデザインされている植物は「万両(まんりょう)」。極寒期にあざやかな赤い実をつける「千両」は葉の上に実を結びますが、万両は葉陰にひっそりと赤い実を結びます。廣池千九郎はこの万両の慎ましさをとのほかに愛していたといえます。

まずは「麗澤大と麗澤大の森について」。大学創立者・廣池千九郎氏と校章にデザインされているマンリョウ(万両)の話から、実が上につくセンリョウ(千両)、ヒャクリョウ(百両)のカラタチバナ、ジュウリョウ(十両)のヤブコウジ、イチリョウ(一両)のアリドオシに続く。また学園の森にはフクロウが生息していることから、生物多様性に富んでいることがわかり、さらに多種の樹木の中では最も本数が多いものがシラカシ、その次がスギで、双方とも1,000本以上あることが紹介された。

次の話題は「麗澤大の森の魅力」。以下の項目で話が展開された。

- ①春に花の咲く樹木
- ②観察会で紹介したい樹木⇒五感で感じてほしい
- ③麗澤大の森ならではの樹木
- ④秋の紅葉(黄葉)が美しい樹木
- ⑤その他

春に咲く樹木の代表は、何といたっても学園の名物であるヒトツバタゴ。現在は新型コロナの影響で、学内に我々のような一般人は立ち入れないが、一見の価値ありと紹介された。その他では、ウワミズザクラ、ベニバナトチノキ、ハンカチツリー、ユリノキ、カワヅザクラ、カンザン、フゲンソウ、ウスズミザクラ、ソメイヨシノ、シダレザクラ、ウスザキオオヤマレンゲ、ベニバナトチノキ、ユリノキ、フゲンソウなど。

観察会で紹介したい樹木としては、クスノキ(三行脈、ダニ部屋、樟脳の香り)、ヒマラヤスギ(シーダローズ)、メタセコイヤ(球果の形)、サルスベリ(木肌の触感)、アベマキ(コルク層の触感)、クロマツ(葉先の硬さ)、ゲッケイジュ(芳香)、タイザンボク(葉裏の触感)、ムクノキ(剛毛の密集)、シラカシ(季節が合えばドングリ)、シキミ(葉を揉んだ香り)、サワラ(気孔帯の形)など、五感を使いながら観察することの意義が語られた。

麗澤大の森ならではの樹木としては、ブナ、カキノキ、シデコブシなど。秋の紅葉(黄葉)が美しい樹木としては、ケヤキ、イチョウ、メグスリノキ、カキノキ、イロハモミジ、また紅葉ではないが、秋冬に花が咲く樹木としてジュウガツザクラ。

最後に、コロナ禍が落ち着いたならば観察会を再開し、散策の後にレストランマンリョウでランチやバーベキューを楽しみましょうと提案があった。

春の花：ヒトツバタゴ(ナンジャモンジャ)



○カフェテリア「さくら」の西側に「ヒトツバタゴ」があり、今や学園の名物である。タゴはトネリコのごとく、トネリコは雑草だが、これは華葉だからこう呼ばれる。



「アサヒは WXY」と覚える

麗澤の森の散策の後にはレストランマンリョウでランチやバーベキューを……



レストランマンリョウ入口



店内の様子